年間第3週・水曜日 21. 種まきと収穫

年間第3週・水曜日 21.種目 21.种目 2

2024/04/03

年間第3週・水曜日

21. 種まきと収穫

- 一種まく人の例え。私たちは主の協力者。人は変わり得る。
- 一 使徒職における楽天主義。主は多くの場合、私たちに実りを見せて下さらない。忍耐と根気。「人の良き成長には、良質のぶどう酒のように時間が必要」。
- 一 実りは常に種に勝る。私たちの多くの友だちは、私たちがキリストについて話すことを期待している。
- 21. 1 種をまく人のたとえ。私たちはキリストと共に働く者。教義を伝えること。霊魂の意向は変わる

「種まき人は、種をまきに出かけ た」¹。今日の福音で主は私たちに 語られます。田畑、小道、いばらの 中、岩地のあらゆる所に少しずつ種 が落ちました。種まき人が、種をま くとあたりに散って落ちます。主は このたとえを用いて説明したいと思 われました。神は、すべての者に恩 恵を豊かに注がれます。働き人の足 もとの土は同じ質のものでしたが、 種を自然に無雑作に振りまきます。 同じように神は、金持ちと貧しい 人、学問のある人と無学な人、熱心 な人と生温い人、臆病な人と勇気あ る人の間に何の分け隔てもされませ ん²。神はすべての人に種をまかれ ます。神は、一人ひとりに救いのた めに必要な助けをお与えになるので す。

会社や薬局、手術室やスタジオ、商店、病棟、野原、劇場などあらゆる場所、私たちがたまたまいる所どこでも、神のメッセージを伝えること

ができます。霊魂に種をまくのは神 ご自身で、やがて成長させていかれ ます。「私たちは、ただの日雇い労 働者です。種まきをするのは神でき から」³。私たちは神の野原の働て、 ・「キリスト信者を使って。動 をまき続けておられまをしまりは、傷ついた御手で表と リストは、傷ついた御手で表とた しめ、麦を御血にひたし、浄めた しめ、大に麦をまかれま も、限りなく寛大に麦をまかれま す。。

さて神の名によって、土地を準備 し、種をそこに植えるのは、機会を の側です。神を伝えるためのきでも見過ごすっし、 がおせん。旅行、レジャー、では はません。旅行、とができまず。 を、後にできまず。 を、とができます。 を、ことができます。 を、ことができませるのは、 を、ことができませるのは、 を、ことがです。 を、ことがずるとは、 を、ことができませるのは、 を、ことができませるのは、 を、ことがするとができませるのは、 を、ことがするとができませるのは、 を、ことがするとがなるとがまたものは、 を、ことがまたものは、 を、ことがまたものは、 を、ことがまたものは、 を、ことがまたものは、 を、ことがまたものは、 を、ことがまたものは、 を、ことがまたものは、 を、ことがまたものは、 です。 です。。 を、ことがまたものは、 を、ことがまたものは、 できまなく神の仕事です。。 し望みどおりの実を結ぶのは、ただ神次第です。「人は、神が霊魂のは、神が霊魂がいる道具に過ぎないのために利用する道具に過ぎな神にと、私たちはこれらの道具を良いできるように、常ならればなければなければなければなければなければなければなけるとをいるようません。自分が道具であるには、良いなりません。自分が道具であるではなりません。自分が道具であるでいるよう、大きな責任があるのです。

ありません。ここにある石は、良く肥えた土壌に変わり、道はもはや踏みつけられず、あるいは通り過ぎている多くの人のための公の通り道になったり、いばらが翻(ひるがえ)って全部、良く肥えた畑になったくすることが可能です。いばらがなられてすることが可能です」⁷。

神にとって、難しすぎたり、耕すのに貧しすぎたりする土地などありません。私たちが謙遜で忍耐強ければ、祈りと犠牲で神の傍に近づくように、霊魂の内的趣向を変えるために必要な恩恵を神から得ることができるからです。

21. 2 使徒職における楽観主義、神は度々実りを見ることを許されない。忍耐と根気。「霊魂は上等のワインのように時が経つとともに改善する」

人々のための仕事(使徒職)はいつも効果があります。神は、度々思いがけない方法で努力を実らせてくださいます。「わたしの民は、無駄に労することはない」⁸、神は、こう私たちに約束してくださいました。

使徒職の仕事は、忍耐強く絶えず続けるべき仕事でもあります。農夫が、芽が初めて地表に出てくるまで

にどんなに長く待たなければならな いか、また刈り入れの時期までさら にまたどんなに長く待たなければな らないかということを知っているよ うに、霊魂を神に近づけるのにどん なに忍耐しなければならないかを知 らなければなりません。福音と私た ちの経験から、恩恵が霊魂内で実を 結ぶためには普通は時間がかかるこ とがわかります。時には私たち自身 の心がそうであるように、多くの 人々の心が恩恵に対して抵抗するこ とも知っています。ですからその時 は、剛毅の徳に密接に関連する忍耐 と、容易く落胆に転じない志操堅固 をもって他の人々を助けるでしょ う。作物が熟す前には収穫すべきで はありません。「忍耐すればより深 く人々を理解することができる。 ちょうど時と共に美味を増す良質の ぶどう酒のごとく、人々も時と共に 著しく進歩することがよくわかって いるからです」¹⁰。

忍耐強く待つことは、怠慢や放棄と 混同されるべきではありません。それは、全く相容れないものです。助けたいと思う人がいるその固有ののとって、その時期にもっともがいるものとい手段、例えば、教義の豊かな光、多くの祈りと快活さ、犠牲の精神、友情を深めることなどを使うようになるのです。

時には、種が岩地やいばらの間に落 ち、私たちが望んでいる実りが現れ るまでに時間が長くかかるように思 われるときがあるかも知れません。 待っているのに緑色の葉が出て来な いようなとき、ほんのわずかな悲観 主義も退けなければなりません。あ なたがたは、度々「『子どもたちの 育て方が間違っていた』とか『周り の人たちに、どんなふうに良いこと をしたらよいかわからなかった』な どと話すなら間違っています。望ん でいた結果に達していないとか、望 んでいた実りをまだ見ないというこ

働きのどのような結果も見られない のに仕事をし続けることは、信仰と 意向の清らかさを示す良いしるしで す。本当に神の栄光のためだけに仕 事を行うという明らかなしるしで す。

「使徒職にどうしても必要なのは信仰である。信仰は、なかなか実を結ばなくても、絶えず神について話す

という不抜の態度にしばしば現れる。堅忍するなら、主がお望みでのまたのまたのなら、あなたのまたのはに、そしてあらゆる所で、そしてあらゆる所で、だろった教的な革命の兆しが現れる人だったなら、ある人は自己を捧げ、他の人たも、方しなるようになるようになるようになるよう。

21.3 刈り入れは、失われるはずの種よりも常に大きい。多くの友人が、私たちが神について話すのを待っています

他の種は良い土地に落ち、その後成長し、増え、30倍、60倍、100倍もの穀類を産出するようです。

ある種は貧しい土に落ちたので失われたが、残りは驚くべき収穫をもたらしました。良く肥えた土は、結ぶべき実を結ばなかった種の分まで豊かに実りました。私たちは、キリス

トのメッセージがもたらす根本的な 楽観主義を決して忘れてはいけませ ん。使徒職は、使われた方法に全く 釣り合わない実りを常にもたらしま す。私たちが忠実ならば、私たちの 祈りと他人(ひと)のために捧げた仕 事、友人と交わした希望に満ちた会 話、犠牲の精神で耐えた病気、これ から先二度とないほどの出会い、そ して、自分のためには何にもならな いように思われるすべての実りに よって生み出された善をすべて、神 は次の世で見せてくださるでしょ う。大学や会社から帰る途中で何十 回も唱えた聖なるロザリオに相応し い人々と出会うでしょう。実を結ば ないものは何もありません。中に は、100倍、60倍、30倍も増えるも のもあります。種をまく人がするた だ一つの間違いは、実を結ばないか も知れないと思う土には種を蒔かな いことです。種を上手にまく能力に 欠けるのではないかとか、誰かが自 分の言うことを誤解するかもしれな

いと怖れ、あまり関心を示さないのではないかと思えて、キリストについて話さなくなるなら、それは間違いです。

使徒職においては、ある人は私たち の呼びかけに応えますが、ある人た ちは応えないことを神がご存じであ ることに気づくべきです。神の限り ない知恵によって、神は、人に自由 を与えられて創造された時、創造主 は、人が自由を間違って行使すると いう危険を受け入れられました。神 は、ある人が全く実を結びたがらな いだろうことを容認されました。目 的の善悪にかかわらず、人それぞれ が自分の運命を決定すべきである と、教会は常に教えてきたのです。 人間の高貴さのしるしでもあり、誰 もが有するこの驚くべき能力にはい つになっても圧倒される思いがしま す¹³。

神は喜んで恩恵に一致する人々をお 喜びになります。恩恵を拒むかわり に自由に受け入れる決心をする霊魂 から、どれほど多くの栄光が神に与 えられるでしょう! 神の助けによっ て、生温い状態のままでいるかわり に聖性の実りを得ようと決心する人 は、神にどれほど喜んでいただける でしょう。聖人は、神にとってどれ ほどの喜びであるか、マリアは、こ の世にいる間にどれほどの栄光を神 にお与えになったかを考えてみま しょう。これは、使徒職における私 たちの楽観主義の土台でなければな りません。

神は、自由を与えずに私たちを創造することができたでしょう。そうなればその存在によって神に栄光を与える動物や植物と同じようなやり方で神に栄光を与えることでしょう。動植物は彼らの本性に必要な法、つまり内的外的な刺激に隷属する本能に従って動きます。私たちは、さら

により完全な動物のようにいかなる 自由もなく創られることもできたで しょう。しかし神は、愛によって私 たちが神に依存するのを認知するこ とを望まれ、選ぶことができるよう に、私たちを自由に創造することを お望みになりました。神は、私たち が、聖マリアの自由な同意に自由に 共鳴することができるようにしたい とお望みになりました。「わたしは 主のはしためです。お言葉どおり、 この身に成りますように」¹⁴。愛の ために自分を神の奴隷にすること は、他の人が間違って自由を行使し て神に対して犯すすべての罪を償う ものです。

種まき人の喜びを経験しましょう。 好機、才能、権威と司牧の職(1コリント3・10参照)によって、種をまくものと刈り入れるもの、(ヨハネ4・37参照)、植える者と水を注ぐ者とはみな、一体でなければならない。それは、彼らが「同一の目的 に向かって、自由に秩序正しく協力 しながら」(1コリント3・8参 照)、教会の建設に心を一つにして 尽力するためである15。

² ヨハネ・クリゾストモ, Homilies on St Matthew's Gospel, 4 4, 3 参照

 $^{3}_{-}$ 聖アウグスチヌス, Sermon 7 3

⁴ 聖ホセマリア・エスクリバー『知 識の香』157

5 コリント1・3 参照

⁶ St PiusX, Encyclical, Haerent animo, 9

⁷聖ヨハネ・クリゾストモ, Homilies on St Matthew's Gospel, 4 4

¹ マルコ4・1-20

⁸ イザヤ65・23

- 9 ヨハネ4・36 参照
- ¹⁰ 聖ホセマリア・エスクリバー『神 の朋友』78
- __ G.Chevrot, The Well of Life
- ¹² 聖ホセマリア・エスクリバー 『拓』207
- ¹³ 聖ホセマリア・エスクリバー『神 の朋友』 3 3
- 14 ルカ1・38
- 15 第二バチカン公会議 教会の宣教 活動に関する教令 28

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-III-sui/ (2025/11/29)